

体と頭を使って

健康増進

リハビリキャラバン隊訪問

1月31日(金)、和東町老人福祉センターで、いつまでも住み慣れた地域で生活ができるよう健康を維持するために、府民リハビリテーション啓発支援事業が開かれました。

この事業は、京都府内の157の民間病院が会員となって組織されている京都私立病院協会によって開かれたもので、今回は医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士などをメンバーとするキャラバン隊が訪問され、介護予防のための運動方法や認知症予防のための頭の体操、飲み込む力を高めるための嚥下体操などを行いました。



じゃんけんゲームで頭を活性化させましょう。

参加者は楽しみなが健康への意識を高めていき、「とても勉強になった。家でも実践してみたい。」と話されていました。

豊浦伸太郎(和東中)さん

会長賞受賞

中学生人権作文コンテスト 京都大会

平成25年度全国中学生人権作文コンテスト京都大会が、京都地方事務局・京都府人権擁護委員連合会主催でおこなわれ、和東中学校2年の豊浦伸太郎さんが城南人権擁護委員会協議会会長賞を受賞されました。

このコンテストは次世代を担う中学生が、人権問題について作文を通して、人権尊重の重要性と必要性についての理解を深めるとともに豊かな人権感覚を身につけることを目的に毎年おこなわれています。

受賞された豊浦さんには、表彰状が授与され、相楽東部広域連立和東中学校には感謝状が贈呈されました。おめでとございませう。



和東中学校 2年 豊浦伸太郎さん

テレビでホームページを閲覧

2月から茶源郷行政情報配信

少子高齢化・過疎化が進む中、「みんなで創るふるさと わづか未来プラン」和東町第4次総合計画に基づき、高速通信網を活用し、地域の活性化及び住民サービスの向上を図るために、平成25年9月にNTT西日本京都支店と「情報化に関する協定」を締結し、2月からテレビを通じて行政情報や生活に役立つ情報を配信するシステム提供を開始することになりました。



テレビでホームページを視聴

本システムは、インターネットとテレビを接続する情報端末「光ボックス」を使用し、インターネットから配信される情報をテレビに映し出すことができ、パソコンをお持ちでない人も情報を得ることが出来ます。

また今回「和東町チャネル」を構築して、役場からのお知らせやホームページ等の閲覧ができるようになりました。今後、さらにアプリケーションを充実させる予定です。

光ボックスについて、くわしくは和東町役場総務課までお問い合わせください。

*光ボックス支給対象者：和東町住民(1世帯1台限り)

問合せ：和東町総務課 TEL0774-78-3001代

今日はおいしいお茶を
飲みましょう



お茶碗を2回まわして
いただきます

2月10日(月)、日本茶インスト
ラクター茶育指導士松石博美さん、
松石三重子さんのご指導で年長児
が『お茶会』を体験しました。
茶文化に触れ、お茶の味を知
り、そしてお茶を楽しく飲むこと
を教えていただきました。
一人ひとり園児向けの茶筌と
お茶碗で楽しくお茶をたてました。
ほとんどの園児は普段「ほうじ
茶」を飲んでいますが、自分でた
てたお抹茶は「おいしい」と、と
ても喜んでいました。
この日の『お茶会』はとても貴
重な体験となったことでしょう。

わびさびの 世界にふれる

くわづかほいくえん



春を呼ぶ茶源郷からの灯り

竹灯籠で東日本大震災復興支援



▶ 幻想的な世界に包まれた会場

で、おこなわれまして。手作り竹灯籠や牛乳パッ
クのろうそくなどが約五千個、公園内のステー
ジ前に並べられました。

竹灯籠は当日までに一個五百円で販売されて
いて、購入された人は復興を願う応援メッセー
ジなどを書き添えられていました。

また東日本大震災復興支援事業として、宮城
県気仙沼市立津谷幼稚園と同市立馬籠幼稚園の
園児の絵画を展示され、ろうそくの柔らかな光
につつまれていました。

この竹灯籠などで集められた義援金は気仙沼
市本吉唐桑商工会を通じて津谷幼稚園と馬籠幼
稚園へ寄付されることになっています。

多くのみなさまのご来場ありがとうございました。

2月7日(金)から

9日(日)までの3日
間、和東運動公園
内で「春を呼ぶ茶
源郷からの灯り」
と題して竹灯籠の
イベントがおこな
われました。

このイベント
は、東日本大震災
復興支援として開
かれ、和東青年
ネットワーク会議
と和東町地域力推
進協議会の共催

和東町茶業史 つうしん

Vol. 9

茶の品種園が広く行き届く以前
のお話です。釜塚にお住いの辻市
郎さん(昭和11年生まれ)は、子
どものころ、茶の実を拾い集めた
そうです。秋になると麻袋に茶の
実を拾い集め、袋ごと土の中に埋
めます。2、3月ごろになると土
中から取り出し、水漬けしておく
と1週間ほどで芽が吹きます。こ
れを、3cmの深さで、4cmの間隔
で畑に植え、乾燥防除のため上か
ら藁をかけました。2年もすれば
少しずつ摘める程度に成長したそ
うです。

また、小杉の宗きりのさん(昭
和10年生まれ)は小学3年生のこ
ろ、冬休みに茶の実拾いをし、学
校が始まるとその実を持って行
き、図書室の本の購入の費用に充
てていたそうです。茶の実拾い
は、お茶どころ和東の子どもたち
にとって、自然に茶業の一端を学
ぶ場面だったといえましょう。



茶の実は、「茶の
実紋」としても広く
知られています。

(取材者：和東町観光振興協議会 元調査員)